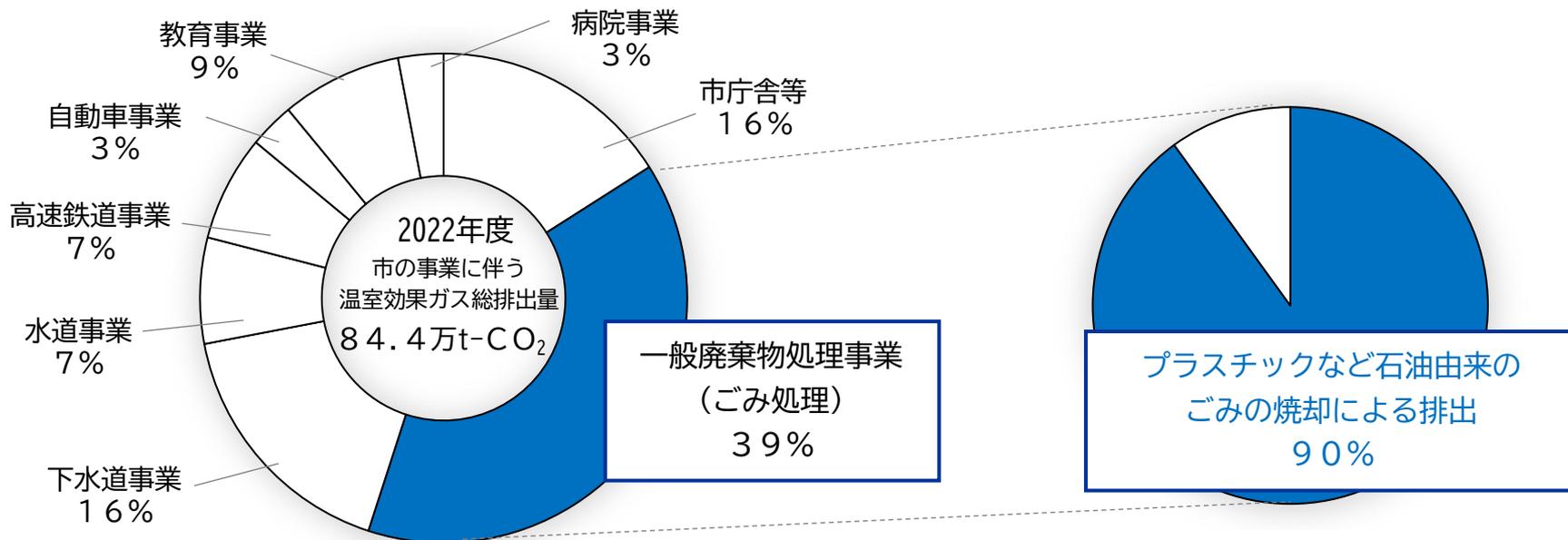


プラスチックごみの分別・リサイクル拡大の 実施状況について

1 取組の背景

市の事業に伴い排出する温室効果ガスのうち、約4割を一般廃棄物処理事業が占めており、その9割はプラスチックなど石油由来のごみの焼却によるもの
⇒温室効果ガスの削減に向け、プラスチック対策を進めていくことが必要



2 プラスチックごみの分別・リサイクルの拡大

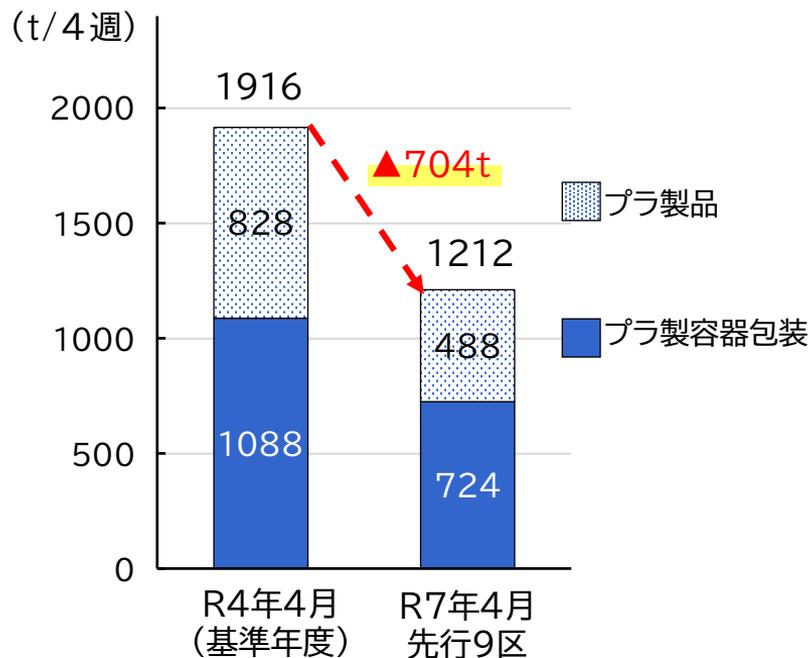
「ヨコハマ プラ^{ごみ}5.3計画」を策定し、燃やすごみに含まれるプラスチックごみの削減に向け、これまでのプラスチック製容器包装に、新たにプラスチックのみでできた製品を加え「プラスチック資源」として収集を令和6年10月に先行9区※1で、令和7年4月から全市域で開始しました。

※1：旭区、泉区、磯子区、金沢区、港南区、栄区、瀬谷区、戸塚区、中区



3 燃やすごみに含まれるプラスチック資源の量 (令和7年4月)

先行9区の燃やすごみに含まれる
プラスチック資源の量



燃やすごみに含まれるプラスチック資源
1人当たり年間削減量

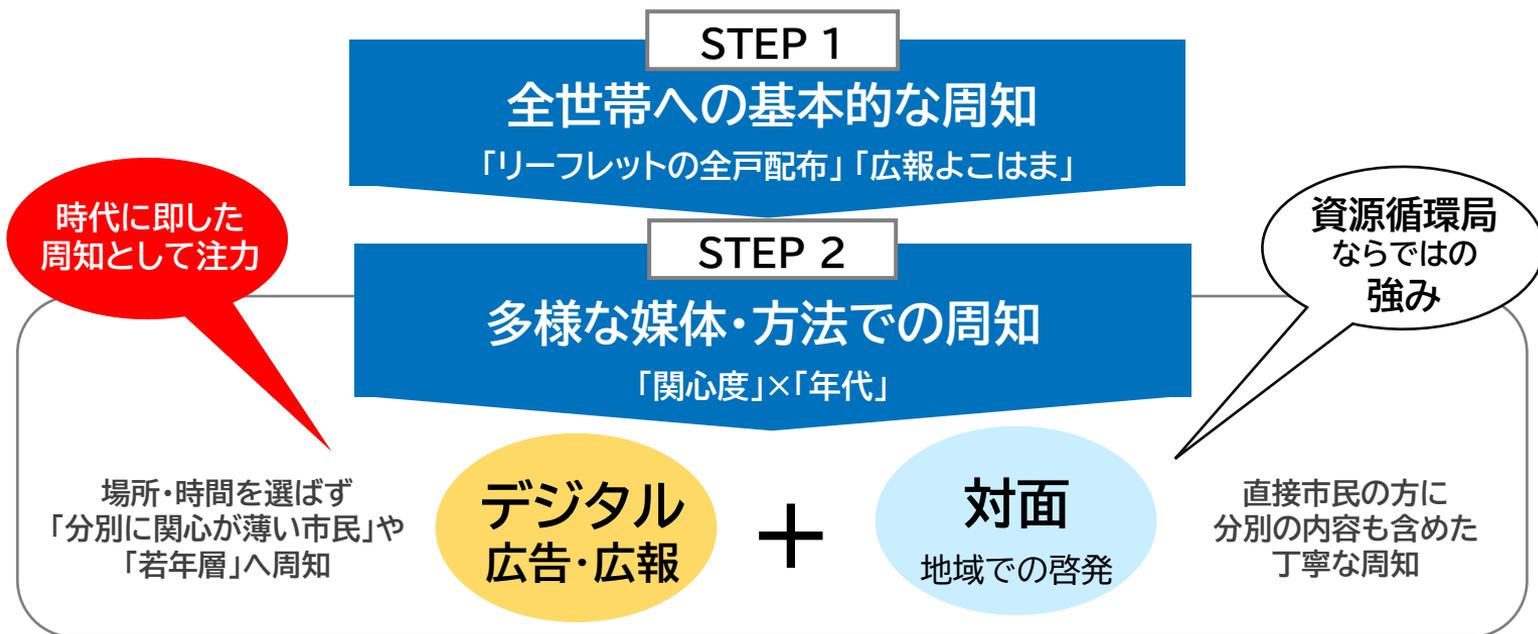
▲5.6kg/(人・年)

計画目標値: ▲5.3kg/(人・年)

4 分別変更にあたり実施した広報・啓発

今回の分別変更は、G30以来の約20年ぶりの変更となるため、市民の皆様にご理解・御協力いただけるよう丁寧に周知してきました。

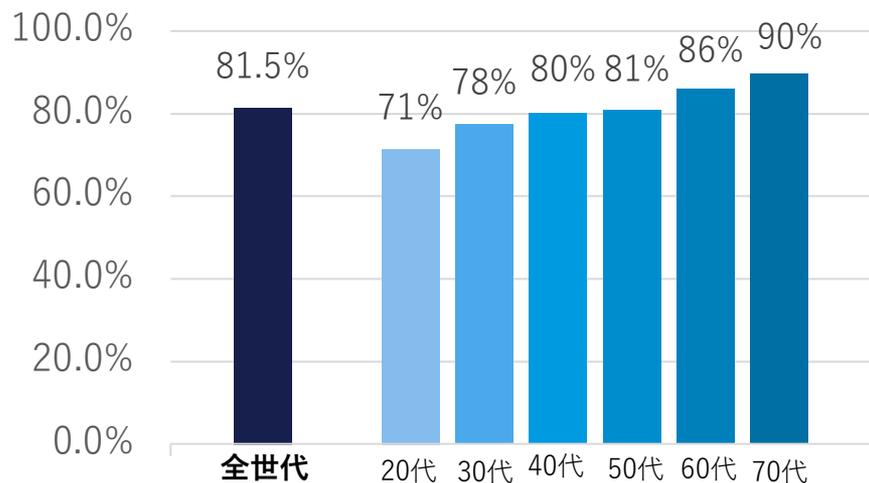
周知は、今の時代背景も踏まえ、様々な媒体・ツールを活用して行いました。



5 分別変更後の状況（先行9区・令和6年10～11月）

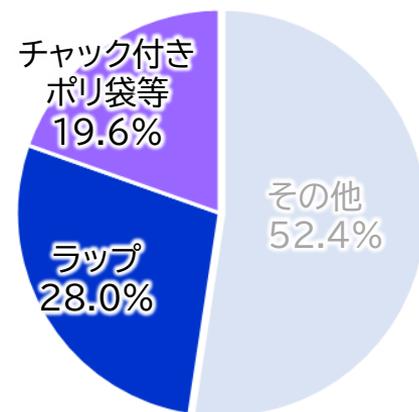
分別変更の認知度等を確認するため
先行9区にお住いの方を対象とした
インターネット定量調査を実施

分別変更の「認知度」 81.5%



燃やすごみの中にどのような
プラスチック資源がどれくらい
入っているかを確認する調査を実施

新たに対象となったプラスチック製品では、
ラップ・チャック付きポリ袋等が多く混入

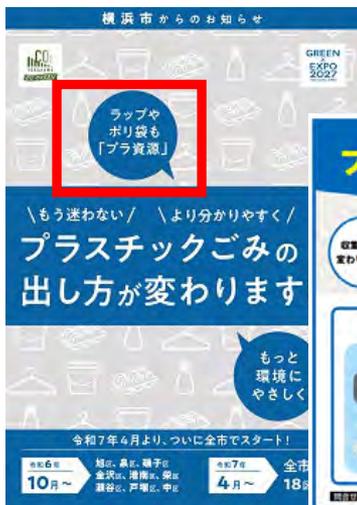


燃やすごみに含まれる
プラスチック製品の内訳

6 令和6年度下半期の広報・啓発

認知度調査や組成調査の結果を踏まえ、誤りの多かった製品の正しい出し方への案内や若者をターゲットとしたSNS媒体の活用など、周知に取り組んできました。

全世帯への基本的な周知



全戸配布リーフレット



広報よこはま市版 2月号

多様な媒体・方法での周知



YouTube



Instagram



説明会等での周知⁷

7 今後の広報・啓発

- プラスチック資源を燃やすごみに入れる理由等を把握する対面調査
 - プラスチック資源の認知度、理解度等を把握するインターネット調査
 - 住居形態・利用者層に応じた排出傾向調査
- ⇒これらの調査結果を事務所間で共有するとともに、事務所横断的なプロジェクトにより更なる取組を検討していきます。

対面調査

- ・燃やすごみに入れる理由等の把握

インターネット調査

- ・プラ資源の認知度、理解度等を把握

排出傾向調査

- ・住居形態・利用者層に応じた排出傾向を把握

事務所横断的プロジェクトを立ち上げ 更なる取組を検討